ゲノム診療センター

1. 概要

臨床検査部門、病理診断科、患者総合支援センターを中心に院内のがん遺伝子パネル検査体制を構築 し、2020年は2件の検査を提出した。

2020年はがんゲノム医療推進のために遺伝性腫瘍カウンセリング加算が新規に保険収載された。一定の基準を満たす患者に対するHBOC(遺伝性乳癌卵巣癌症候群)確定のためのBRCA1/2遺伝子検査やがん既発症者に対する対側乳房や、卵巣・卵管予防切除が保険適応となった。BRCA1/2遺伝子検査は2020年12月に膵臓癌、前立腺癌も適応拡大となり今後検査対象患者の増加が見込まれる。

網羅的に多数の遺伝子を調べるがん遺伝子パネル検査やコンパニオン診断としての遺伝子診断をきっかけとして遺伝性腫瘍の可能性が示唆されることがある。

2020年はHBOC関連での姉妹のカウンセリングや他院で確定診断された娘のシングルサイト検査に対応した。リンチ症候群に関しても遺伝子検査やカウンセリング(自費)を行った。専門医が少ないため検査前のカウンセリングの全例対応はできていないが、検査に迷われる方、不安の強い症例については個別に対応している。検査後のカウンセリングや家族の確定診断についてもできる限り対応している。周産期分野における母体血を用いた出生前遺伝学的検査(NIPT: non-invasive prenatal genetic testing)は2020年、40件の検査を行った。本検査については学会よりの指針改定が凍結しているため旧来の基準で検査を継続している。

(センター長 岡田 真由美)